

避難生活知識学ぶ

児童が野外炊飯、テント泊

福井

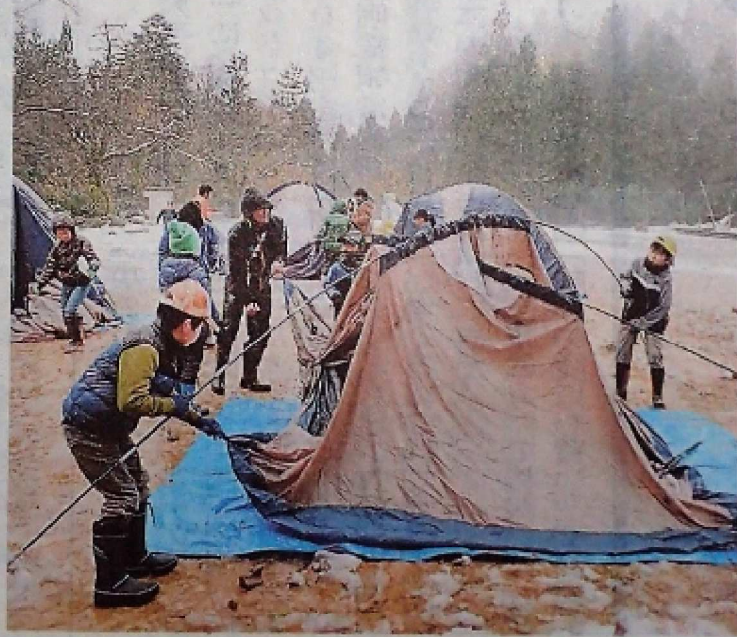
地震や洪水などの災害による避難生活を想定した「防災チャレンジキャンプ」が25、26の両日、福井市上味見生涯教育施設で行われた。市内の児童たちがテント泊や野外炊飯を通じ、非常時に役立つ知識や心構えを学んだ。

同施設など旧美山町を舞台に、子どもの自然体験活動に取り組むNPO法人自然体験共学センターが初めて企画。

市内の小学1〜5年生19人が参加した。

25日は児童たちはほかつて小学校の校庭だった場所で、雪が積もる中、NPO職員らの指導を受けテントを設営。夕食作りでは、飯ごうで米をといだり、カレーの野菜を切ったりと手分けして取り組んだ。啓蒙小5年の齊藤真刃君(11)は「災害のときには知らない人と一緒にテントで寝て

雪が積もる中、テントを張る児童たち=25日、福井市の上味見生涯教育施設



過(す)すこともあると思う。体験したことを家族や学校の友達に伝えたい」と飯ごう炊飯用の火起こしに挑戦していた。

た。

細川和朗理事長(27)は「困難に立ち向かいやり遂げる強い心や、挑戦する気持ちを身に付けるきっかけになれば」と話していた。(近藤洋平)

山里口御門見学 城址の歴史学ぶ

県、福井で内覧会

福井市の福井城(ふくいじょう)址西側で山里口御門(やまのこうごもん)の復元整備を進めている県は25日、城址の歴史に親しんでもらおうと10月下旬に完成した建物の一般向け内覧会を開いた。写真。歴史愛好家ら200人余りが訪